

福祉みやぎ

vol.608
2020

3月号

「晩秋」

■ 作者：齊藤 文子さん（栗原市）

第27回宮城シニア美術展
洋画の部 最優秀賞作品

CONTENTS (主な内容)

P2 特集

P4 Heart & Works

P6 「第4回宮城発 これからの福祉を
考える全国セミナー」を
開催しました!

P7 キラリ☆仕事人

P8 令和元年東日本台風
(台風第19号)における支援状況
～発災から5か月～

P10 復興宮城のいま

P11 みやぎいきいきシニアだより
こんなことやってます!

P12 県社協掲示板



フードバンク活動を通して、 誰も取り残されない分け合う社会を目指して

NPO法人ふうどばんく東北AGAIN

事務局 小椋 亘

皆さんは今の日本社会に対して
どんなイメージを持っていますか？

戦後、高度経済成長を遂げて今も世界第3位の経済大国であり、物質的にも食べ物も豊かになりました。そんな中、私たちは安心して暮らせているでしょうか？

当団体には毎日、お金が無くて食べるものが、買えない、将来が不安、生活が苦しい、ワーキングプア、人間関係に悩む等、不安や生きづらさを抱えている人からのSOSが多く寄せられています。それもそのはず、今の日本は約4割が非正規雇用、自殺率はG7でワースト1位、いじめやDVも増え続けており、地域コミュニティは薄れ、孤立化、無縁化はますます進んでいます。

6人に1人が相対的貧困に
陥っている日本社会

そうした中、日本の格差は広がり続け6人に1人が相対的貧困に陥り、大人の貧困に比例して子どもも7人に1人が貧困に陥っています。母子のひとり親世帯では、半分以上が貧困に苦しんでいます。その彼らも多くは、食べ物を十分に得られずに困っています。このように、今、命である食に困っている人々が身近に大勢います。雇用と同時に住居も失ったホームレスや、数ヶ月間ごとの契約雇用、一人暮らしの高齢者、家族の暴力から逃げてきた人、不慮の事故、病気や障がい等、いつ誰が貧困になってもおかしくない社会なのです。また滑り台社会とも言われており一度困窮に陥ると脱するのが難しい社会でもあります。

大量の食べ物を捨てている日本

その一方で、日本は美味しく十分に栄養価値のある食べ物を、規格外や余剰生産、賞味期限が近いといった理由で毎日廃棄し続けています。その量は年間643万トン以上で、この数は世界の食糧援助量の2年分の量になります。世界中では8億人（9人に1人）が食べる物に困っている中、日本は世界トップクラスの量の食糧を捨てています。それだけではなく、日本は世界一食糧の輸送コストをかけCO₂を排出し、国内の63%の食糧を各国から集めているにもかかわらず大量に捨てているのです。本来、日本発祥の「モッタイナイ」や「いただきます」の言葉には、食べる分しか採らない、余すところなく食べる、自然や命への感謝の意が込められており、人と人、人と自然が支え合い、助け合う暮らしから生まれた言葉です。そこに既に、SDGSもあったのです。この日本国内でも食べる物がなくて多くの人が困っている一方で、食べ物が大量に捨てられている現状は、経済のあり方等日本社会の様々な歪みが象徴されているように感じます。

NPO法人ふうどばんく
東北AGAINの活動

当団体は発足11年目になる東北で1番古いフードバンク団体です。私たちの活動は、食糧を届けることが目的ではなく、「誰も取り残されることのない社会」をつくることを目的に活動しています。そのため食糧支援にとどまらず、行政や他団体と連携し困っている背景を包括的にサポートするネットワークの構築を進めています。そうした連携団体は、福祉、居住支援、就労支援、弁護士、行政、子ども支援、学習支援、シエルトー、困窮者支援、被災者支援等300団体にのびります。

具体的には次の3つの活動をおこなっています。①フードバンク活動では、食べるものが無くて困っている個人への食糧支援をはじめ、相談機関、行政機関、子ども食堂、ホームレス支援団体等の団体へ食糧を提供しております。その数は年間60ト

ンにのぼり、13,000人の食事につながっています。②困りごと支援では、一時の食糧支援だけでは解決しない生活のさまざまな困りごとをサポートしています。相談機関に繋いだり、制度利用の支援、路上生活者の住居探し等、支援機関と連携しながらサポートしています。③コミュニティ活動では、事務所内で「AGAIN CAFE」という名前でコミュニティスペースを運営しており、誰もが遊びにこれる場、地域のお祭り開催、子ども食堂等、地域住民同士が友だちになれる場を開いています。「AGAIN CAFE」では、月・水・金にランチ営業をしており、他にもワークショップの開催、ライブ、小物の委託販売等をおこなっておりますので、ぜひ遊びに来て下さい。



よく活動紹介を見ると「こんな飽食の時代に、食べられない人がそんなにたくさんいるのですか？」と驚かれます。しかし実際に、当団体には毎日「3日間、水しか飲んでない」といった相談が寄せられています。困窮者の問題が見えにくい社会の裏を返すと、生活困窮が恥であるとか、差別や偏見が社会背景にあることで困っていてもSOSが出しにくい事情があります。困っていても日々耐え続け、隠し続けながら暮らしていることが難しくなっている今日、助け合おう社会の在り方に、息が詰まるような苦しさ、寂しさを感じずにはいられません。



「皆さんは、どんな社会を希望していますか？」この問いは、私たちがどんな社会を創っていくのか、という問いでもあります。これからの希望ある社会は私たち一人一人が持ち続け、そして実行し創り上げていく必要があると感じています。

「皆さんは、どんな社会を希望していますか？」この問いは、私たちがどんな社会を創っていくのか、という問いでもあります。これからの希望ある社会は私たち一人一人が持ち続け、そして実行し創り上げていく必要があると感じています。



お問い合わせ先

NPO法人
 ふうどばんく東北AGAIN(あがいん) 事務局
 〒981-3341 宮城県富谷市成田8丁目1-1
 TEL: 022-779-7150 FAX: 022-774-1410
 HP <https://www.foodbank.or.jp/>
 メールアドレス info@foodbank.or.jp

ハート アンド ワークス Heart & Works

地域で活躍できる人材の育成をめざして

せんだい豊齢ネットワーク

少子高齢化が進む中、“シニアの力で仙台を元気にしよう”と各種活動を行っているシニアのグループが集まってできた組織がせんだい豊齢ネットワークです。

せんだい豊齢ネットワークは豊齢学園修了生を中心にシニアの活動団体の支援を主な目的として結成されました。今回はせんだい豊齢ネットワークで議長を務める湯村和彦さんにお話を伺ってきました。

せんだい豊齢ネットワークとは？

せんだい豊齢ネットワーク（以下豊齢ネットワーク）とは、仙台市シルバーセンターを拠点に13年前にせんだい豊齢学園（以下豊齢学園）の修了生を中心にシニアの活動団体の支援を主な目的として結成されました。シルバーセンター内の活動場所の貸し出しをしてシニア間の交流を促進したり、さまざまな事業の企画・運営、地域行事などに参加して地域づくりに貢献しています。

豊齢ネットワークでは、豊齢学園の修了生が多く活動されていますが、豊齢学園在生や一般の方、一般のサークルも加入することができます。豊齢学園とは、50歳以上の仙台市内に住んでいる方を対象にした学園です。市民のみなさんに社会参加や社会貢献につながる学習機会と相互交流の場を提供し、地域づくりや仲間づくり等の学習を通して、豊齢化社会づくりのために積極的に社会貢献活動を行う人材養成を目的としています。

さまざまな講座を受講することができ、毎年たくさんの方が学んでいます。豊齢ネットワークは豊齢学園との関わりを持ちつつ、一般の方も含めたくさんの高齢者の皆さんが活動し、活躍されている場所なのです。

加入サークルは増加傾向に

高齢化が進み、サークルを抜ける方がいる反面、新しく加入する方や新しいサークルが年々増えてきています。豊齢ネットワークには仙台を拠点に、主に60代から70代の方が活動しているさまざまなサークルがあります。ボランティア活動を積極的に行うサークルや、仲間づくりと健康生活を目指す健康マージャンサークル、手芸や折り紙など創作活動を行うサークル等活動は多岐にわたります。中には複数のサークルに所属し、積極的に活動されている方もいらっしゃるそうです。すでにあるサークルに所属することもでき、新たなサークルを作ることできます。

豊齢ネットワークに加入すると、活動する場所がなくても仙台市シルバーセンター内のふれあいコーナーや活動コーナー等の場所を借りることができるため、積極的にサークル活動を行うことができます。ふれあいコーナーでは一般の方も参加することができイベント等も随時行っているそうです。また、7階には誰でも気軽に立ち寄れる交流サロンがあります。そこでは加入サークルの活動情報発信等を行い、高齢者間の交流を促進しています。

活動を広く知ってもらうために

サークルでの活動以外にもイベントなどの企画や運営も行っています。イベントを企画する際には豊齢ネットワーク加入者の中から実行委員を決め、話し合いを重ねるそうです。中でも10年程前から実施している仙台フィルハーモニー管弦楽団との共同企画であるコンサートは、チケットが毎回完売するほど人気があります。チケットの販売も実行委員を中心として

豊齢ネットワークで行っています。豊齢ネットワークと豊齢学園が協働して行う「せんだい豊齢ネットまつり」では、一般市民の方も対象として明るいセカンドライフに向けての啓発や体験イベントを実施しています。



▲せんだい豊齢ネットまつりでのシンポジウムの様子

豊齢ネットワークで活動するサークルが作品を出展したり、ステージ出演をしたりと日ごろの活動の成果を発表する場でもあり、実際に活動発表を聞いてサークルに入る方もいるそうです。また、豊齢ネットワークには豊齢学園修了生で結成された同期会があります。

豊齢学園生が活動発表の中で同期会結成の経験談を聞き、実際に自分たちの同期会を結成することもありました。

豊齢ネットワークで活動されている高齢者以外にも地域で地道に活動されている方もいますが、なかなか目に留まりにくいのが現状です。その活動を地域に見えるようにすることが重要で、地域で地道に活動されている方も豊齢ネットワークで紹介していく必要があると考えていると湯村議長は話します。



▲仙台タブレットバンドの演奏

これからの展望について

世の中は高齢化社会真つただ中です。豊齢ネットワークでも中にはメンバーが高齢になり引退されたり、サークル自体がなくなったりすることもあるそうです。それでも高齢期は長く、どんどん高齢者が増えていく中で、高齢者同士が互いに刺激し合うことが大切です。「人生で様々な経験をされ、それぞれ得意なこともあると思う。その得意分野を豊齢ネットワークで活かしてほしい。」と湯村議長は話します。

豊齢ネットワークでは新規のサークル加入者、新規のサークルを募集しています。興味のあるサークルがあれば紹介もしているそうです。皆さんもぜひ豊齢ネットワークに加入し、充実したセカンドライフを送りませんか？

(宮城県社協取材)

「第4回宮城発 これからの福祉を考える全国セミナー」を開催しました！

地域包括ケアシステムを構築するうえで
の柱となる『新しい地域支援事業』は市町村
の裁量が大きな事業であり、国も例を示すに
留めていることから、個々の市町村の実情、
地域性に応じた展開が求められています。

この事業の中で特に重要だとされる
協議体と、そのパートナーでもある生
活支援コーディネーターの活動内容を
通じ、誰もが自分らしく暮らしていく
ための社会の実現を考える機会とし
て、令和2年2月14日、これからの福
祉を考える全国セミナーを開催しまし
た（主催・宮城県地域支え合い・生活
支援推進連絡会議）。今号では、その
内容を速報として報告いたします。

第1部そのI

お宝探しと地域歩き

地域づくりを進めるため、生活支援コ
ーディネーターは地域で、さまざまなお宝（地
域資源）を探しマッチングしています。

今回は南三陸町社会福祉協議会と秋
保地域包括支援センターからは、地域
の願いを叶えようとする住民の主体的
な活動を応援している事例について報

告をいただきました。

地域のサロンや介護予防教室、さま
ざまなサービスだけがお宝ではなく、
暮らしのなかで行
われる自然な住民
同士の支え合いな
ども大事なお宝で
あることを再確認
することができま
した。



第1部そのII
協議体ってどう進めるの？

協議体が『ワイワイガヤガヤ』活発
であればあるほど、地域資源の共有や
住民同士の繋がりが豊かになり、支え
合いが促進されるといわれています。

角田市社会福祉協議会からは元氣な協
議体運営を行うために心がけている事や
失敗した事について発表をいただきました。
兵庫 淡路市社会福祉協議会から
は形式的な協議体だけではなく、多くの
繋がりがある場合、話し合いの場を協議体群と
して捉え、これが地域づくりの根幹であ
ることについて発表をいただきました。

協議体を活性化するうえで大事にして
いることや工夫していることなどについ
ても発表をいただ
き、些細なことが
きっかけとなり、
活動が促進されて
いくことなどに
ついて学ぶことが
できました。



第2部
共に生きる社会の実現に向けて

地域には、元氣な高齢者だけでなく、
支援や介護が必要な状態になった人
や、子供や障害のある方も含め、さま
ざまな人が暮らしています。

意識はしていないけれど農作業を通
じ繋がっている住民「つるがや畑プロ
ジェクト」、認知症や病気などにより
要介護になってもみんな活動してい
る「栗原東お茶っこ会」、何気ない集
いの場が地域で大切な役割を果たして
いる「気仙沼市魚町踏切手前のお茶
処」、介護保険制度が始まる前より地
域づくりに取組まれている「茨城県日

立市塙山学区住みよいまちをつくる
会」の皆様から発表を頂き、会場の方
とディスカッションを行いました。

各団体の活動内容、規模など違いは
あるものの、この先、住民が地域で暮
らし続けるためのヒントを授けられた
発表でした。今探している資源やつな
がりを活かすことで、自分たちの10年
後、20年後の暮らしのイメージを共有
することができました。

セミナーを終えて

普段何気なく行っている自然な住民
同士の支え合いを大事にすることが、
地域づくりの第一歩につながることを、
今回のセミナーでは参加者と確認
できたと思います。宮城県ではこれか
らも、市町村における地域づくりを応
援するため、『宮城県地域支え合い・
生活支援推進連絡会議』の運営を通じ、
市町村の新しい地域支援事業を応援し
てまいります。ぜひ今回ご紹介した取
組を参考にそれぞれの地域で地域づく
りを推進して頂きたいと思えます。

キラリ☆仕事人

このコーナーでは福祉の職場で働くキラリ☆と光る人を紹介します



本号では、
仙台市子育てふれあいプラザ
のびすく仙台で保育士として働く
佐藤ゆかり(さとうゆかり)さん
にお話を伺いました！

現在の仕事の内容を教えてください

子育て支援をしています。ここでは一時預かりが多いので、預かったお子さんと一緒に遊んだり、見守りをしていきます。また、ひろばに来館される親子連れの見守りはもちろん、のびすく仙台では毎月イベントを行っているのです、そのイベントの担当や準備も行っています。ここでは相談業務も行っているのです、お子さんと遊びながら保護者から相談を受けたりすることもあります。

この仕事に就いたきっかけを教えてください

小さい頃から保育士に憧れがありました。最初は違う職に就きました。自身が結婚して子育てをする中で、やっぱり子どもはかわいいなという思いがあり、調べているうちに託児ボランティアの募集があり、携わってみようと思ったことがきっかけです。ボランティア活動を10年以上しているうちにのびすくに声をかけていただきました。親子と接するなかで、ありがとうと感謝されたり、資格がなくても先生と言ってくれることが多く、ここで保育士試験に挑戦してみようと思いついた。合格し正式にのびすく仙台で働くことになりました。

やりがいや魅力を感じる場面はどんなところですか

お子さんや保護者の笑顔を見ると、やりがいを感じます。また、ありがとうなど感謝の言葉をもらうと頑張らなきゃという気持ちになります。

魅力は、毎日たくさんのお会いがあることだと思います。ここは毎日違う方が利用されますし、県外の方も利用することができますので、おじいちゃんやおばあちゃんなど家族ぐるみでの利用も増えてきています。

難しいと感じる場面はどんなところですか

保護者の方々はさまざまな悩みを抱えていて、相談を受ける機会が多いです。私たちがその悩みを直接解決することはできないので、いかに親御さんの気持ちに寄り添うことができるかが難しいところです。後で掛けた言葉が正しかったのかと悩むこともあります。

心掛けていることはありますか

子どもの気持ちに寄り添うことを一番に心がけています。こちらを信頼できる環境ができると笑顔になっ

てくれるので、どのように接したらよいのか、環境づくりやお話しをして子どもの気持ちをくみ取ってあげられたらと思っています。

(宮城県社協取材)



仙台市子育てふれあいプラザ のびすく仙台

子育てを総合的に支援し、子育てが安心してできるまちの実現を図るため、仙台市が設置している施設です。「のびすく」は仙台、泉中央、長町南、宮城野（原町児童館内）、若林の5館があります。

【お問い合わせ先】

〒980-0021
仙台市青葉区中央2丁目10番24号
仙台ガス局ショールーム3階

TEL：022-726-6181

令和元年東日本台風(台風第19号)における支援状況〜発災から5ヶ月〜

昨年発生した令和元年東日本台風(台風第19号)(以下、「台風第19号」という)では、宮城県内35市町村の全てに災害救助法が適用されるとともに、ライフラインや交通網の寸断、土砂や稲わらによる生活空間の喪失等、宮城県内に甚大な被害をもたらしました。今号では、被災地の生活復興に向けた取り組みを紹介するとともに、発災から5ヶ月が経過した宮城県内の状況について報告をします。

1 災害VCから 支え合いセンターへ

県内に深い爪痕を残した台風第19号災害の発生から5か月。災害ボランティアセンターが応えてきた二ーズは、避難所から仮設住宅等への引越に伴い変化し、日常生活の支援二ーズが変化してきました。具体的には、仮設住宅内での環境改善や個別生活支援、住民同士の交流の場をつくるための

サロン活動、中長期的視点での被災者の心のケア、訪問活動など。

被災地の社協は、こうした活動・取り組みを通じて、住民や地域のエンパワメントに軸足をおいた活動を行っていくこととなります。これらの的確に対応するのが生活支援相談員(以下「相談員」という)。被災により経済基盤、生活基盤が弱くなり、自立した生活が困難になった人への支援を行う重要な役割を担っています。

2 被災地一丸となって

丸森町と大郷町に配置された相談員の全員が、個別支援、ソーシャルワークに精通した方々ばかりではありません。したがって、研修が重要であると同時に彼らの業務をバックアップできる体制が大切です。個々の相談員自身が判断に迷う場面では、相談できる仕組みを町社協内部につくっておく必要があります。新たに

雇用された相談員は、次のように話してくれました。「たくさんのボランティアさんに助けてもらい、「今度は自分たちが!!」と思っている住民はたくさんいるはず」「これからは、その人たちが活躍できる場を創ってきたい」と。被災地社協には、こうした地元出身の相談員の気持ちを



受け止め、被災者一人ひとりを包括的に総合的に受け止める「覚悟」が必要になるといえます。

3 災害を乗り越えて復興へ

「昨年の豪雨災害は、多くの方々生活を大きく変えました。家族を失う、友人を失う、家や職場を

失う、そして住み慣れた地域での豊かな人間関係を失いました。」と話すのは相談員を総括する伊藤主任。

被災者をとりまく経済基盤、生活基盤、社会関係が劇的に変わろうとしています。そのような状況から復旧・復興の歩みが始まります。時間の経過とともに、地域から孤立していく人は必ずいます。相談員は、そのような人たちに寄り添い、日常を支え、相談にのり、必要なサービスにつなぐ役割を担ってくれるはずです。両町社協による、生活再建は始まったばかりです。



■ 報告 ■

台風第19号では、県内35市町のうち11市町で当該市町社協が運営する災害VCが設置され、県内外からのボランティア協力を得ながら、被災された地域住民の生活再建に向けた家財の搬出や瓦礫の撤去、泥出し等の様々な活動が取り組まれてきました。12月末日時点では、丸森町災害VCを残して10市町の災害VCは閉所しており、今後は社会福祉協議会の本来の役割として地域で困りごとを抱える方々に寄り添い、普段の暮らしへと戻るよう支援が続けられていきます。



	社協名	開設・閉所日	ボラ受入状況
1	石巻市社会福祉協議会	10月15日 ~ 11月17日	1,032人
2	白石市社会福祉協議会	10月14日 ~ 11月4日	540人
3	角田市社会福祉協議会	10月18日 ~ 12月15日	974人
4	大崎市社会福祉協議会	10月15日 ~ 12月1日	2,288人
5	大河原町社会福祉協議会	10月17日 ~ 10月31日	115人
6	村田町社会福祉協議会	10月15日 ~ 10月25日	87人
7	柴田町社会福祉協議会	10月15日 ~ 11月30日	1,000人
8	丸森町社会福祉協議会	10月16日 ~ 継続中	15,334人
9	大和町社会福祉協議会	10月15日 ~ 11月21日	494人
10	大郷町社会福祉協議会	10月17日 ~ 12月25日	2,699人
11	涌谷町社会福祉協議会	10月14日 ~ 10月23日	448人
	合計		25,011人

●被災地災害ボランティアセンターの設置状況及びボランティア受入状況（12月末日時点）



▲東北労働金庫様との贈呈式



●長期間に渡り、数多くのボランティアの皆様のおかげで被災地の復興支援は進んできました。

全国からのご支援に感謝申し上げます

災害支援金

(令和元年12月11日～令和2年2月20日受付分) 順不同

東北労働金庫 様	10,000,000円
川乃石の愛をつたえ隊 様	26,000円
公益社団法人認知症の人と家族の会	
富山県支部 会員一同 様	30,000円
(福) 兵庫県社会福祉協議会 様	200,000円
(株) ファインステージ様	500,000円



季節の“ほほえみ”お届けします！

～南三陸町 志津川東西災害公営住宅 歩歩笑の会～

平成28年～29年にかけて入居がはじまった南三陸町志津川東西災害公営住宅には、町内各地の応急仮設住宅から移り住んだ方たちが暮らしています。棟ごとのお茶会等を行う中、昨年、気の合う仲間が集まって「ほほえみ 歩歩笑の会」を結成“何か新しい事をやってみよう”と季節ごとに趣向を凝らした訪問を企画しました。

おばさまとおばあちゃんによる、普段着とは一味違う、工夫と笑いに満ちたその訪問活動とは...?! 公営住宅8棟に、大きな笑い声が響き渡った様子をご紹介します。

7月 織り姫訪問



浴衣を纏って織姫さまに変身！
彦星さまを訪問します♡



七夕かざりに添えるプレゼントは
心をこめたゆで卵！



9月 フラガール訪問



敬老のお祝いもこめて・・・
ドアを開けたら「アロハ～♪」



12月 クリスマス訪問



サンタとトナカイが煙突ならぬ
公営住宅の階段を登り訪問します。
「来年も元気に過ごしましょう！」



プレゼントは「かぼちゃ粥」
冬至を前にみんなで調理しました。



近隣にお住まいの方へもプレゼント。
「来年もよろしくお願いします。」



「はぁ～がおった～！少し休憩！」



歩歩笑の会 代表 佐藤みさをさんと仲間の皆さん

「入居当初はほとんどが知らない人同士。暮らし始めは不安もありました。それでも、みんなと一緒に暮らしていくための、楽しめる工夫をしていきたいと思いました。棟のフロアに知っている人でもいれば尋ねるきっかけになるけれど、いないと行きづらいもの。会の仲間は高齢者が多いけれど、仮装で自分を解き放ち(!?)仲間と一緒に8棟を歩き、訪問先で笑ってもらえることは嬉しいです。LSAは応急仮設住宅の頃からの顔なじみ。後押しに助けられています。」

LSA(※) 三浦美江さん・遠藤けい子さん

「東西公営住宅集会所に常駐しています。住民の方々と4回目のお正月を迎えました。LSAが側にいることがあたりまえになるのではなく、住民一人ひとりがそれぞれに地域の一員として元気に安心して暮らせるよう、これからも皆さんの声に寄り添い、そっと支え、時にやさしく背中を押す。そのような活動を続けたいです。そして時には住民のみなさんと一緒になって、LSAも心から楽しみたいと思います。」

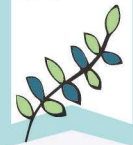
南三陸町社会福祉協議会 「結の里」

東西災害公営住宅に隣接する施設「結の里」を中心に、町内災害公営住宅とそれを取り巻く地域の活性化を、持ち前のリーダーシップで元気に進行中。アイデアにあふれた各種イベントのみならず、ふとした立ち話からでもつながりの温かさを感じられるよう、住民一人ひとりの日常に、楽しさや変化の1ページをつづり続けています。

※LSA：ライフサポートアドバイザーの略。応急仮設住宅や災害公営住宅等で被災された方々の訪問活動のほか、地域の皆さんの声に寄り添って活動しています。



宮城シニア美術展 工芸の部
最優秀賞 永田 敏明さん(72歳)



昨年、宮城県社協が開催した「第27回宮城シニア美術展」工芸の部において最優秀賞を受賞した永田敏明さん(丸森町在住・72歳)にお話を伺いました。永田さんは、第26回宮城シニア美術展の工芸の部で優秀賞を受賞しており、2年連続での受賞となりました。

永田さんが竹細工を始めたのは、趣味の溪流釣りに使う魚籠の作り方が雑誌に載っていたのを見て作ってみたのがきっかけで、定年後は竹細工職人に習い、確かな技術を身に着けたそうです。

「丸森町に引越してからは、町内の竹細工生産部会の会長として活動していたが、昨年の台風19号による豪雨で活動拠点である町の高齢者生産活動センターが被災して部会を解散したことから、新たに地区の方々と活動を始めたい」と話され、取材当日は初めての集まりの日で皆さんが竹細工を楽しんでいました。

永田さんは花籠を作ることが多く、今まで10個ほど作り、イメージどおりの形に出来上がった時がとても気持ちが良いそうです。創作する時は、本職の方が作った作品の載っている雑誌や本を丹念に見てイメージするそうです。受賞作品の「重ね編みバッグ」は「2種類の竹をていねいに編み上げて表情

豊かな作品に仕上げている」と評価されました。材料のすず竹は町内で採取していますが、黒竹の節と節の間が長くて太いものは県内で手に入りにくいので、県外から求めており材料の調達に苦労しているそうです。

永田さんは「バッグを網代編みするとき節と節が重ならないよう折り返しに苦労したが、黒竹の白い部分と黒い部分の交わりが模様に見えて上手くなりました。宮城シニア美術展のことは町広報で知り出展しましたが、知らない人が多いのもっとPRして募集した方が良いと思う。今度は一戸町鳥越に二重の弁当箱があることを雑誌で見たので同じものを作りたい」と意欲的に話していただきました。



▲作品「黒竹とすず竹の重ね編みバッグ」



▲永田さん(右)と仲間の皆さん

こんなことやっています! ここでは、宮城県社協の事業をご紹介します

救護施設 太白荘

生活保護法第38条2項の規定に基づく「救護施設」です。身体・精神上的の障害で自立生活が困難な方へ生活の場を提供し、支援をおこなっています。

施設の利用者本人が生活の主体者として自己を表現し、直面する課題に挑戦する力の増進に努め、地域の一員として生活できるよう支援をしています。

太白荘では利用者一人ひとりのライフステージに応じた日中活動や、生活に意欲と楽しみが持てる自主的な活動の提供をこながけています。

屋外では畑作業や環境整備作業などをおこない、屋内では健康・体力維持のためのレクリエーションを取り入れたりハビリ訓練やボランティアの方々による趣味活動などをおこなっています。



▲園庭のお掃除



▲三神峯でのお花見

【お問い合わせ先】

救護施設太白荘

住所 仙台市太白区旗立2-3-1

連絡先 022-245-3721

Information
県社協掲示板



温かい真心をありがとうございます

下記の記の方々から本会に寄附金をいただきました。温かい真心に感謝申し上げます。(令和2年2月20日現在)

<寄附金>

- 令和元年12月13日 JXTGエネルギー労働組合東北支部さまより本会で運営する施設のために …… 2,700円
- 令和2年 1月 6日 株式会社ブリッジさまより社会福祉事業のために …………… 20,000円
- 令和2年 1月31日 公共社団法人生命保険フィナンシャルアドバイザー協会宮城県協会様より
法人のために … 100,000円
- 令和2年 2月 4日 株式会社ブリッジさまより社会福祉事業のために …………… 20,000円

本会評議員変更のお知らせ

退任：畠山こずゑ 様 新任：引地 淑子 様(令和元年12月27日付)

宮城県社会協議会で働く正規職員を募集しています！

宮城県社会福祉協議会では、本会で運営している各種社会福祉施設や法人事務局で業務に従事する正規職員を募集します。

令和2年度の採用案内については、5月頃にホームページにて掲載するとともに、就活情報サイト(マイナビ・リクナビ)にも掲載しますので、ご覧ください。

勤務先：宮城県社会福祉協議会が管理運営している県内の社会福祉施設。

主に仙台市泉区・太白区・大和町の特別養護老人ホームや障害者支援施設などです。

宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度

地元で
安心

宮城県地域福祉総合補償制度

本制度は事故対応はもちろん、事務手続きなどのアフターフォローは全て地元で行いますので安心です。是非ご加入をご検討ください。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| (I) 福祉事業者賠償責任保険 | (II) 保育施設賠償責任保険 |
| (III) 医療行為賠償責任保険 | (IV) 個人情報漏えい保険 |
| (V) 業務災害補償保険 | (VI) サービス利用者傷害見舞金保険 |
| (VII) 送迎自動車傷害保険 | (VIII) 日帰りサービス利用者傷害保険 |

◆役員賠償責任保険(社会福祉法人専用プラン)29年法施行対応版◆

★更新の時期です！

当制度は2020年4月1日で補償が終了しますので、更新のお手続きが必要です。詳しくは代理店(オンワード・マエノ)までお問合せください。

お問合せ

社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社オンワード・マエノ

TEL022-225-8476
TEL022-221-3171
TEL022-762-9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。

この印刷物は、植物性油インキを使用し、環境にやさしい水なし印刷方式を採用しています。



「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧になれます。また、ご意見、ご感想、とりあげて欲しいテーマなどをお寄せください。表紙の作品も募集しています。